

第1回 日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会

令和4年(2022年)7月12日(火)15時～

日野町役場 301会議室

~~~~~

### ○子ども支援課長

ただいまから第1回日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会を開会いたします。

開会にあたりまして、日野町長 堀江和博がごあいさつ申し上げます。

### ○町長

皆さま、こんにちは。

本日は第1回日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会に大変お忙しい中にも関わらずご出席を賜りまして、ありがとうございます。

後ほど委嘱をさせていただきますが、趣旨にご理解をいただきまして、また、長期間にわたりお時間を頂戴することになりますが、ご協力をいただきますこと、心から感謝を申し上げます。ありがとうございます。

今回、「幼児教育保育」ということで皆様にお集まりをいただいたわけですが、今、役場で様々なプロジェクトを進めています。それらに共通して「持続可能性」というテーマを掲げております。単年度、短期的な目の前の課題に対処するということは行政として当然ですが、これから10年、20年、場合によっては30年の日野町における様々な課題を長期的なスパンで考えた時に、今の仕組みでいいのだろうか、考え方・体制でいいのだろうか、問題意識を持っているところです。

様々な課題はあるわけですが、例えば今、公共交通のことも進めさせていただいております。その他、日野町には本当に素晴らしい文化財が存在しております。それらを次世代に継承される計画づくりも今年から行っています。また、持続可能性と言えば自然環境のことも当然重要であり、環境基本計画も取り組んでいます。

そして今年度、4つ目の持続可能性を追求していきたいということで、幼児教育保育についても、目の前の課題を解決することは当然ですが、これからの子どもたち、そして子どもたちに関わる我々にとって、よりよい在り方はどうであるか、それを皆さんと一緒に紡ぎ出していきたい、しっかりと考えていきたいという趣旨で、今回このような懇話会を開催させていただくことになったわけです。

ご存じのとおり、今、保育ニーズは大変高まっております。無償化に数年前になりましたが、3歳以上の方はもちろんですが、0、1、2歳児の子を持つ方々にも大変ニーズが高まっております。受入数のニーズも当然ですが、保育の質の部分も重要です。

様々なバックグラウンドを持ち、国籍も違ったり、発達に係る支援が必要な子どもさんが増えたりと、課題があります。どのような方であってもしっかりとした保育、また幼児

教育をしていかなければなりません。

そういった意味で、非常に重要な局面に差し掛かっているわけですが、その一方で保育士の不足が本当に慢性化しております。正規職員のみならず、今の保育現場では会計年度任用職員の手助けで現場が回っていますが、保育士の募集をしても応募がありません。今もずっと募集していますが、応募が無い状況が続いています。保育士がいなければ、園児定数までお預かりできないという現状が出ております。

そして、日野町独自の状況としては、それぞれ施設が分散しているという特徴もあります。それぞれの幼稚園・保育所、子ども園が、様々な経緯の中で分散化した形で施設がありますが、それぞれが老朽化という課題もあります。また、保育や幼児教育の分野では、教育の適正規模という考え方があり、園児数が少ないよりも一定の集団の方がいいのではないかといった議論も当然あり、それぞれメリット・デメリット、良い部分・そうでない部分、それぞれあります。よく自治体としては、ある意味強権的に集約化を行われるわけですが、私は思いがありまして、やはりこれまで日野町はそれぞれの地域の良さがあり、そして保育に対する地域の方の思いや保護者さんの思いもそれぞれあります。行政が簡単に結論を決めるのではなく、一度、子どもにとって日野町の保育環境・幼児教育の環境がそもそもどうあるべきかということをもつとつくるからだと。そこが私たち全員に共通する目的だと思います。子どもたちにとって何がいいのか、子どもたちに関わる我々にとって何がいいのかということをもつとつくる、そしてその中で具体的にどうやっていったらいいのかということを考えるのが筋ではないかと思っています。

そういった意味では、我々としても挑戦です。こちらが完璧な案を持って、皆さんどうですかという進め方ではなく、皆さんからのボトムアップの中で地域のお声もお伺いして、そこで答えを見出していこうという挑戦でもあり、そういった思いであります。

委員の皆様にはそれぞれのお立場、ご経験、ご見識の中からご意見を賜りますとともに、その一方で第三者的に、皆さんこういったことをおっしゃっているけれども、これを共通でうまく進めるような道筋は何だろうという視点から、ぜひともお知恵をお貸しいただきたいと思っております。

行政はなかなか困っているとは言いませんが、困っております。本当に困っています。子どもたちのために何とかしたいという思いは私たちも皆さんと同様にございます。ですが、知恵が及ばないことも多々ございますので、皆さんと一緒につくっていきたくて、我々は全力を尽くすのは当然でございます。皆さんと一緒に、その中で何かいい方法、これからのことを考えてまいりたいと思っております。大変ご負担をおかけしてお世話になりますけれども、どうぞよろしくお願い申し上げます。以上、冒頭のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございます。

~~~~~

○子ども支援課長

ありがとうございました。それでは、次第3に入ります。ただいまから委員の皆さんに

委嘱をさせていただきたいと思います。

委嘱につきましては、懇話会設置要綱第3条の規定に基づき、これから皆さんに幼児教育保育の在り方について検討いただく委員として、いろいろとお世話になります。

それでは、日野町長から委員の皆さんに委嘱状を交付させていただきます。

(委嘱状交付)

~~~~~

#### ○子ども支援課長

それでは、次第の4、名簿に従いまして、自己紹介をよろしくお願いします。

(出席者自己紹介)

~~~~~

○子ども支援課長

それでは、次第の5、委員長・副委員長の選出を行います。

資料の設置要綱第5条により、委員の互選により選出することとなっています。どのような方法で選出をすればよろしいか、皆様にお諮りをいたします。

(「事務局一任」の声あり)

○子ども支援課長

どうもありがとうございます。「事務局一任」の声をいただきましたので、こちらから指名をさせていただくという形をとらせていただいて、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○子ども支援課長

「異議なし」のお声をいただきましたので、こちらから指名させていただきます。

委員長に、学識経験者で滋賀県立大学の非常勤講師 佐々木和之様、よろしくお願いたします。

続いて副委員長に、同じく学識経験者で彦根市の認定こども園ひかりの森 園長の大橋美智子様をお願いをしたいと思います。

皆様、ご承認をいただけますでしょうか。

○子ども支援課長

ありがとうございます。

それでは、ここからは佐々木先生、大橋先生に懇話会を代表いたしまして懇話会の総括の任にあたっていただくこととなります。どうぞよろしくお願いたします。

~~~~~

#### ○子ども支援課長

続きまして、委員長・副委員長が決まりましたので、次第の6、「持続可能な幼児教育保育の在り方について」、日野町長から在り方検討懇話会の委員長に対しまして、検討の依頼をさせていただきます。

(依頼文読み上げ)

### ○子ども支援課長

ありがとうございました。ただいまの依頼文が資料の3ページに添付されております。ただいま町長から、「持続可能な幼児教育保育の在り方について」、委員長に検討の依頼をしていただきました。これからは、依頼に基づき懇話会で検討を進めていただくことになります。どうぞ皆様、よろしく願いいたします。

それでは、ここからは設置要綱第6条の規定により、会議の議長は委員長が務めていただくことになっておりますので、佐々木先生に進行をよろしく願いいたします。

~~~~~

○委員長

ここから進行させていただきます。よろしく願いいたします。

まず、次第の7、懇話会の基本的な考え方やスケジュールおよびすすめ方について、お話をさせていただきます。

もう少し簡単に私の自己紹介をさせていただきます。住民行政連繋が専門だと申しましたが、皆さん、聞いたことありませんか。もともと何をやっていた人間かという、防災のこともしていますが、河川空間を子どもたちがもっと遊べる場所とできないかということを考えていました。実現しようとする川は行政がやっているので、行政の人たちにどういうふうに思いを届けたいと実現するのだろうと考えていたら、住民行政連繋が専門になりました。

県立大学の非常勤講師だと申し上げましたが、ほかにも立命館大学やびわこ学院大学でも教えています。それ以外にNPOや市民活動の支援などを仕事としてやっています。琵琶湖一周のサイクリングにも関わらせていただいております。

さて、国の機関が少子化の予想をされているので、そこから見ていこうと思いますが、2020年と比べ、2065年には0歳～14歳の人口がだいたい半分ぐらいになります。0歳～14歳、15歳～64歳、65歳以上という形で、65歳以上の高齢者から14歳以下の数字を引くとどんな数字になるか。2050年あたりにピークが来て下がっていくという形ですが、今から劇的に人口が増える予測にはなっていません。

皆さん、草津市なら人がたくさん流入してきそうだし、子どもがたくさんいるから、安泰だと思われませんか。確かに草津市は2045年にも6,000人位いて、子どもの数は大丈夫そうに思えるのですが、実は隠れているところが恐ろしい数字で、65歳以上の高齢者から14歳以下の差を取ると、今は1万人余りですが、2万人くらいになるのです。

つまり、子どもは横ばいでも、高齢者がどんどん増えていってしまうので、子どもの数だけ見たら安泰のように思えるのですが、ものすごい高齢化を起こしていくということがあつたりします。ですから決して、今たくさんマンションが建っている草津市が安泰かということ、そういうわけではない。日野町だけが危機的な状況だということではなくて、表れ方はそれぞれでも、いろいろ問題はあるということです。

それから、理想的なところを考えるうえで、私は川の間人ですからこういう話があります。奈良県のとあるところに小学校がありました。ここは小学校を残すために、ダムに沈むところを移転改築したところです。

当然、小学校を残すことが補償されているのですが、ダムの移転補償で移転改修した後どうなったかいうと、ダムが建設されて、残った人口が17%となりました。1960年代としてはものすごく立派な鉄筋コンクリート造りの校舎が建ったのですが、あつという間に休校になって、最終的に廃校になったのは1998年ですが、校舎をつくったものの、ほとんど動いていません。

この会議の場でも、とにかく施設を残そうという意見が出てくるかと思うので、モノをつくる世界に私はいたので、先に皆さんに注意喚起したいと思うのは、モノを残そうと思っても残らないです。子どもがいなくなったら、教える人がいないのですから。

それからもう1つ、とある九州の山の中に、ものすごく立派な橋が架かりました。橋のこちら側に小学校があり、向かい側の集落から子どもたちが、昔は小さい橋を渡って通学していたのが、橋ができたことによってすぐ渡るだけで通学できるようになった。もちろん、これだけ立派な橋を架けたのはそれだけの理由ではないです。前後にバイパスをつくるという計画もありましたが、小学生はこれで通学が楽になるよねと思っていたら、完成して2年後に小学校は閉校になってしまいました。

だから、難しいのです。モノをいくら子どもたちのためにと考えてつくったところで、人がいなくなってしまうまでなのです。土木という、そういう世界観のところでは仕事をしておりましたので、まず皆さんにお伝えしておきたいです。とにかく残そうという話が先に出るかなと思っているのですけれども、もしそれを本気で目指すとしたら、子どもがどうやったら残るのかを考えていかなければいけないです。モノが、例えば小学校の校舎、幼稚園の園舎、橋というものがある。だけど、それは就学する子どもたちがいるから、渡る人がいるから、モノとしての機能を発揮できるのです。モノだけあっても、渡る人がいなければ活用されないわけです。ですから、それを何とかして残そうと考えていくと、将来どういう形になっていって、それに向かって何をしなければいけないのかを考えなければいけないということになります。

今、日野町を取り巻く状況で見ると、いろいろな変化が起きています。私は委員長を拝命させていただき、皆さんと一緒にしていきたい仕事として思っているのは、将来像をつくることです。将来像があつて、その将来像を達成するために何が必要なのか、私も全力で日本全国の調査をしなければいけないと思っていますし、ネットで拾えるレベルに関してはいろいろ見えています。離島のところだと一切開校しないという選択をしている行政体もあれば、自治会で法人をつくって運営しているところもあり、本当にいろいろなところがあります。

もう1つ、今回、町長さんから、「こちらから計画をお示しして、それに対して意見をもらうのではなく」ということでお話をいただいて、非常に嬉しく思っております。それ

はなぜかと言いますと、それは私の「川の世界」がそういうやり方をするからです。案を提示して意見を求めるというのは、土木の世界では沢山あります。ですが、案を示した時に、意見が反映される余地があるとは思ってもらえないです。恐ろしいことに、土木は1回つくと長ければ50年も100年も残ってしまうのです。間違えたからつくり直そうというにはもの多額のお金が掛かるので、間違えても簡単には直せません。あと、難しいところですが、モノをつくってほしいとかいう話になりがちです。モノがあるかないか。でも、そうすると、それをつくる人が忘れ去られてしまいます。

一例をあげます。ある県の一級河川に示された図面です。こんな堤防を計画していますとあって、今日みたいな会議で示された図面です。皆さん、この図面を見てどのように思いますか。こういうものができるのだなと思いませんか。しっかり図面が引かれていて、こういうふうなL字型の堤防がつくられる計画になっているのだなと思うと思います。

ところが、私はもともと土木の人間ではなかったもので、外から勉強してわかったのですが、これはイラストに描いてみたレベルの図面です。土木の世界では基本設計といい、改良の余地がある、「とりあえず案で描いてみました」と軽く示されているぐらいの図面なのです。でも、住民さんにこれを見せた時に、そうは受け取ってはもらえない。こういう堤防を行政は計画していて、それを通すためにこの会議に示したのかな、くらいにしか思われぬのです。やはり計画を先に示すというのは非常に怖いなということを私はこの現場で体感しました。

ちなみに、この図面が一番語っていることは何かというと、この高さの堤防が要りますということが実は本質でした。堤防の形とか場所は動かしても問題ないのです。ただ、水が上がってくる高さは決まっているので、それだけは動かさせません。ここは実はすごく有名な景勝地です。もう10年以上前ですけども、ものすごい、丘みたいな堤防ができ上がっています。

ここで何を意識しなければいけないかということを皆様にお示しさせていただきたいのは、この場に何のために皆さんがお集まりいただいているかということがはっきり示されることで、それは明確に町長さんからお話しいただけたと思います。ぜひ将来像をつくっていきたいですし、もちろん当事者、公募の方にも来ていただいておりますし、実際に子育てに関わっている皆さんのお声をいただくことがすごく大事だと思います。

もちろん、こういったものが欲しい、あんなものが欲しいという話もあると思います。言ったらいけないのではなくて、なぜそれが欲しいのかということが大事です。例えば川の堤防を考えても、例えば東屋がほしいとかいう話が出てきますが、なぜ欲しいのかと聞くと、毎日散歩をしていて、川には日陰がないから休憩できる場所が欲しいと。実はそこにみんなでつどうことによってコミュニケーションを図れる場所になっているから、ぜひ新しく川をつくった時にも、日陰があつて休めるところがほしい。

そうすると、別に東屋じゃなくてもいいわけですね。そのようなところをつなげていくことがすごく大事です。

私の専門分野である合意形成。私はいまだに「合意形成」という言葉に馴染めていません。私が皆さんとしていきたいと思っていることは、いろいろなご意見をこれからお示しただけならなと思っていますが、重なるところがあると思います。子どもたちが将来育まれる日野町、そういうところはどんなところなのかと考えていく時に、個々の意見は違っていても、想いが重なるところはきっとあるはずです。そこを見つけて、そこをベースにして将来像を創ることこそ私がしなければいけない一番の仕事だと思っています。

これからしていくこととしては、それぞれの園に出かけて行って、保護者の皆さんのお話を聞いていかなければいけません。それが「想いを集める」という作業になってきます。対象層の皆さんに合わせて聞き方を変えていかなければいけません、それは後ほどお示ししたいと思っています。

何を大切にしていくべきなのかということかというと、私は、一生懸命、情報を集めてきますので、それを皆さんにご覧いただきながら、将来像が決まったら、それを達成するためにどんな役割分担が必要なのか。ぜひ、人が勝手につくった計画ではなくて、みんなで作ったね、というような計画にしたいと思っています。

ですから、この委員長を拝命するにあたり、委員の皆様にとつだけお願いしたいことがあります。いろいろな意見が出るとは思いますが、ぜひ、否定しないでください。自分と異なることはたくさんあると思いますが、意見は意見として受け止めていただいて、ただ、ご自身が思っていることは忌憚なく発言していただければなと思っています。そして最終的に目標としましては、自分たちが将来像の中に入っている姿が想像できる。自分でなければ、自分のお子さんが大人になった時に、その子どもたちがちゃんと案の中に見えるような、そういった将来像をぜひ皆様と一緒に創造していきたいと思っています。私から考え方につきましてご紹介させていただきました。

一旦閉じさせていただいて、あとでわからないことがありましたお尋ねください。

~~~~~

## ○委員長

では、次第の8「懇話会での検討の流れおよび幼児教育保育の現状について」ということで、事務局からご説明をお願いしたいと思います。

## ○子ども支援課長

続きまして、懇話会での流れと日野町の幼児教育保育の現状についてということで、お手元の資料に基づきご説明させていただきます。

日野町の幼稚園・子ども園・保育園は現在、私立、公立を合わせて10施設あります。

幼稚園は4つ、子ども園が1つ、公立の保育園が分園を含めて3つ、私立の保育園が2つとなっています。

まず、定員に対する預かりの人数ですが、令和4年4月1日現在、幼稚園4箇所定員540名ですが、入園者数は196名ということで、定員に対する入所率は36.3%です。

こども園が1園、定員が120名に対しまして入園者数は79人、入所率65.8%です。

保育園は5園ありまして、定員の合計が365名に対し、入園者数は359人ということで、入園率98.4%で、ほぼ定員に達しています。

各園の年齢別の園児の在籍者数でございますが、特筆すべきは西大路幼稚園と南比都佐幼稚園は非常に子どもの数が減ってきています。西大路幼稚園は3歳児が2名、4歳児が7名、5歳児が4名で合計13名。南比都佐幼稚園も3歳児が7人、4歳児が7人、5歳児が6人の合計20人ということで、子どもの発育や規模、そのあたりの大事な部分も考えていかなければいけない課題の1つとっております。

続いて、第6次日野町総合計画の中で、「時代の変化に対応し だれもが輝き ともに創るまち日野」の実現に向けてということで、課題とこれからの方策についてまとめてみました。

3つのキーワードとして「多様性」、町長からもありましたように「持続可能」、そして「共創」ということです。

「社会的背景」が現在どういう状態かという、少子高齢化、核家族化、共働き世帯の増加、就労形態の多様化、一方で、家庭の中と地域のつながりが希薄化している部分もあります。それと、グローバル社会の進展による多様性の尊重ということで、様々な多様性が尊重されている時代であるということです。

「時代の変化が見られるもの」の例としまして、少子高齢化の中で子どもの数が減ってきているということと、あわせて若者人口の減少による保育士のなり手不足があります。

雇用形態の多様化については、長時間の預かり保育を求める保護者の増加、あわせて低年齢化しているというのが現在の保育ニーズの多様化でございます。

地域のつながりについては、子育てに不安を感じている親の増加もございますし、発達段階に応じた必要な支援、また、外国籍の子どもや家庭が増えているということで、多様性の中で様々なことが見られます。

そういう「変化に対し、持続可能な保育をすすめるために課題として検討すべきこと」は、適正な集団の中で過ごすことによって、相互に影響し合い、心を動かしながら、自ら動き出そうとする力の醸成、それと保育人材の確保というのが大事なところ。それと、地域の中で幼児教育保育の在り方として、この「地域」というのが1つのこれからの部分でいくと、どのような関わりができるかということも検討すべきではないかという部分で、「共創」の中に入ります。地域との共創、またいろいろな関係する団体・NPO・企業などとの様々な共創というのがあげられると思います。

そのような中で安心して妊娠・出産・子育てができるための支援、それと孤立しない子育て環境の構築、また、発達に関わる段階では、一人ひとりの発達段階に応じた支援や保護者への支援が必要になってきたということです。

そういった課題について懇話会のテーマでもあります、意見をしっかりと受け止めてみんなで考えていきたいと思います。確認しておきます。

続いて、「子ども」を中心にして、「家庭」と「幼稚園・保育園・子ども園」、それから

「地域」との関わりについて考えてみました。

まず、子どもと家庭については、家庭教育が一番根幹となるところです。地域の中では、地域子育て、それから園と子どもでは幼児教育・保育を提供する。それと家庭と園の中では、園と保護者の相互理解、信頼関係の構築というのがあげられます。

続いて家庭と地域の中では、地域とのつながり、ご隣近所同士の助け合いということがあります。園と地域では、運営の協力・支援、地域人材の登用・提供ということがあります。

子どもと園では、基本となる教育要領・保育指針というものがあります。これは、幼児期における教育・保育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要なものという位置づけの中で、発達の側面から健康、人間関係、環境、言葉、表現という5つの領域にまとめられている要領・指針です。幼児期の終わりまでに育ててほしい「10の姿」がこの中に示されています。

様々な課題が見える中で、家庭・地域の中ではコミュニティの希薄化・孤立する中で、今までは祖父母・兄弟・親族の協力関係、また、友人・会社・同僚の関係が以前に比べると弱くなっている部分があります。そのような中で、家庭と園では子育て支援を行いながら、子育てや親育ちのための相互支援を行っています。しかし、援助の在り方の難しさ、多様化している中で思い描く保育との葛藤を保育士たちは抱えていることや、業務量が増えているという現状もあります。

地域との関わりの中では、地域人材が高齢化等による先細りをしているという状況もあります。日野町では今、つながりの場の創出ということで、つどいのひろば「ぼけっと」、わらべ地域子育て支援センター、ファミリーサポートセンター、公民館での各地区子育てサロンなど、精力的に地域の皆さんで行っていただいています。

また、子どもに関わる諸団体ということで、PTAや青少年育成町民会議、また、虐待等の関係もありますが、日野町子ども家庭支援地域協議会、主任児童委員、民生委員・児童委員、社会福祉協議会等もあります。公民館を中心とした地域活動、地域の課題を話し合い、地域の教育力の向上を目指していくということもあります。

一方で、園との関係でいきますと、職員の資質向上というのが大事なことです。もちろん、保育者が集まらないといけませんので人材の確保、それと保育者の研修機会の確保、組織体制の整備と強化、保護者や地域・他園・学校等の関係機関とコミュニケーションを図りながらともに育てるネットワーク力というのが、保育の中で求められている部分であると思います。

これからはこうした家庭・地域・幼児教育保育が互いに連携を図りながら、子どもの将来を考えていく。そして、自分たちのまちの将来像をどう描いていくか、様々な世代の意見を受け止めて、どうしたら解決に迎えるのかの考えを掘り下げていく。それが日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会であると考えております。

続いて、懇話会の構成ですが、会議の公表については、会議録等をもって公表をさせていただいて、広く住民の皆さんに周知をいたします。ただし、闊達な意見を尊重する意味

からも、発言者等の名前については公表しない形で、ホームページに掲載していこうと考えております。

次に基本的な考え方ですが、先ほどからも委員長から言っていたような住民提案型、行政提案型ではなく、住民主導と一緒に地域の課題を考えていくというスタンスでまいります。例えば自分の子育てについて、大事にされていることはどんなことですかとか、どのようなお子さんに育ててほしいと願われていますかというような保護者さんの意見も聞きながら、また地域の意見も聞きながら、本質を出し合うということが大切だと思います。そんな中で地区の将来像をどのようにしていきたいか。それには住民の皆さんが互いに思いを出し合って、その思いを受け止めることも大事だと思います。

一方で課題もしっかりと伝え、住民と課題を共有して共に考えていくということで、幼稚園・保育園・公民館等で意見聴取、ワークショップを実施してまいります。

また同時に、これから子育てを迎える方、中学生・高校生・大学生等からの意見聴取ができるような方法も検討していきたいと考えております。

それぞれいろいろなご意見があると思います。その中で想いの重なり合う部分はどこにあるかということ拾い上げ、そこで一旦持ち帰って懇話会で議論をして、まとめ上げていく作業が必要だと思います。そんな中で、将来像と優先順位の可視化を第1段階の到達目標として進めていきたいと思っております。

懇話会の設置目的については、要綱の第2条に掲げているような内容で、最終的にまとめたものを町長に報告して、町民の皆さん、議会への報告を行います。

続いて、懇話会の検討の流れですが、本日、日野町長から在り方検討委員会に依頼をいただきました。そこで住民の方々と膝を交えて意見を聞き、それをまとめたものを報告するという形になります。

その報告したものを、「日野町子ども・子育て会議」という条例で決められた会議がございますが、そこに報告をしていくということになります。現在、「第2期日野町子ども・子育て支援事業計画」ということで、今年度（令和4年度）中間見直しの年になります。懇話会の意見をこの会議に反映できるような形で諮問をしながら、その会議での答申をしていただくという流れを考えております。教育委員会とも共有しながら意見をいただき、最終的に住民の皆さん、町議会に報告をしていくという内容です。

本日、懇話会が発足したあと、保育所や幼稚園でのワークショップ実施、そのワークショップがひととおり終わった時点で、第2回懇話会を9月下旬から10月上旬に開催したいと考えております。続いて、若い世代からのご意見も聞きながら、公民館でのワークショップということで、日野町は幼児施設と公民館・学校が非常に近い関係の中で子どもが育っていくという、良い環境があるわけですが、地域の声、公民館でいろいろ関わる住民の方々が子どもに対して、地域の中でどのようにありたいかというご意見もたくさん持っておられます。そういったワークショップも実施しながら第3回懇話会、そして第4回懇話会あたりで年度末のまとめを行い、中間報告を町や議会へさせていただきたいと

考えております。

来年度になり、何回か懇話会を重ねながら、最終的にそれらをまとめた中で、結果を町長に報告させていただくという流れでございます。以上が全体の流れになります。

~~~~~

○子ども支援課長

次に、幼児教育の在り方を検討していくうえで、子どもにとって大切な幼児期の教育とは何かということ子ども支援課参事から説明させていただきます。

○子ども支援課参事

幼児教育における子どもたちの教育保育の基本を示したものの、先ほど課長からも話がありましたように、幼稚園教育要領・幼保連携型認定子ども園教育保育要領・保育所保育指針の3法令になります。長時間の保育を必要とされる方の増加による待機児童の問題と、様々なバックグラウンドからの子どもたちの育ちの課題が背景に見られてきたということから、この3法令が5年前に同時に改定されることになりました。どこの施設で保育を受けようとも、子どもたちのために育ちにつながる教育的環境をつくる教育施設であるということが、すべての施設において位置づけられたということが、この改定の大きなポイントの1つでありました。

教育施設ということがありますけれども、幼児期は学校教育のように、知識を教えられて身につけていく時期ではございません。育みたい資質・能力を、遊びや生活の中で体験を通して学びながら身につけていくということが大切になってきます。遊びを中心として頭も心も体も動かして、主体的に様々なもの・ひと・ことに関わりながら、遊びを通して思考をめぐらし、創造力を発揮し、また友だちと共有したり協力したりして、多くのことを総合的に学んでいきます。このように、遊びや生活を通じた学びにつながる援助が保育ということになるので、その辺を意識して日々の保育に当たらせていただいているような状況です。

今後、先行き不透明な社会の中で、自分の人生を豊かなものにしていくためにも、子どもたちがこれから出会う様々な場面において、自ら主体的に考え、判断できるような力や、また、困難なことに立ち向かう時にも逃げずに解決しようとする気持ちや、また解決できる力というものを育てていくことが必要であり、日々の家庭生活や保育の中でそのような力を育成していく体験の積み重ねというものが大切になってくると考えます。

このような園の思いや考え、また家庭の保護者の方との連携を取る中で、保護者の皆さんや地域の方、また学校や専門機関と、園での生活の中で経験を通じた学びをされているということを共有して、コミュニケーションを図りながら相互理解や相互支援に努めることが大切だということを感じています。

子どもの育ちを保障するための教育環境、先ほど町長や課長からもお話がありましたように、今、保育現場は人員が大変不足している状況でございます。そういう課題や子ども

もの育ちにつながる適正な集団規模というものを含む環境の整備も必要になってくるかと感じておりますし、学び続ける職員、保育者も意欲的に保育に向かうような、そういうものが資質向上につながってくるということを感じますので、体制の整備等々、いろいろな課題を今感じているところでございます。

色々な課題に対して、子どもを真ん中に据えて様々な側面から保護者さんや住民の皆さんと一緒に、本当に細かいところまで話し合いながら考えさせていただけることを願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

以下、参考としまして、幼児教育において育みたい資質・能力、3つの柱、また5領域、および5領域の内容が整理された幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」など、すべての園でそれらをもとに各園で具体的な保育実践につないでいるような状況です。参考までに資料を付けさせていただきましたので、目を通していただけるとありがたいです。以上です。

~~~~~

#### ○委員長

ありがとうございました。私もまだ読み込みが終わってないところがあるのですがけれども、このあと情報提供で残っているのは、実際に明日以降、保育園でどういうワークショップをしていくのかという話を皆様にしようと思っていたのですが、ここまでで情報量が多くなってきましたので、1回意見交換をしたいと思います。

なかなか、初回の会議でマイクを回されても何をいったらいいかわからないところがあると思うのですがけれども、今日の段階でぜひ言っていただけたらありがたいなと思っているのは、たぶん今日の資料だけではわからないこととか、もっと知りたいことがあると思うのです。そういったことをぜひ言ってください。私も資料づくりに関わって、この会議は住民主体ですから、皆さんがわからなければ話が進みにくいということがありますので、ぜひ、このあたりはもう少し説明してほしいとか、こういう数字が見たいとか、ここまで話を聞いた感想でも構いません。私はこんな考え方を持って皆さんと一緒に将来像をつくり上げたいと思っているのですが、それについてわからないことを質問するとか、今日のところは何でもいいので、とりあえず一言いただきながら、という感じにしたいのですがけれども、よろしいでしょうか。マイクを回していきたいと思います。

はじめに副委員長、お願いします。

#### ○副委員長

私は日野町の実態がまだよくわかってないので、偉そうなことは言えませんが、今いろいろな園を回らせていただいて、京都にも日野町とよく似た感じの町で、しかも園児が減ってきているというところがたくさんあります。そこで数名の子どもで運営されている園もありますが、無くさないようにしようと、この地域に帰ってくる場所があることは大事だなと思います。

日野町でずっと住み続けて、ずっと仕事があるかどうかはわかりませんが、都会へ出て

行ったとしても、世の中いろんなことがあるし、想像できないようなことが起こった時に、折れそうになった時に、折れなくて済むためのエネルギーは何かと考えた時に、居場所・行き場所があるというのが一番大事かなと思います。幼児期の汗水流して遊んだことや、地域のおじいちゃんやおばあちゃんに出会ったこと、あそこの山に行ってこんなことをしたなという、小さい時の大事な地域の経験や思い出は、都会や違うところに行って、もしそこで折れたとしても、ここに帰ってこようかと思える場所があるというのは絶対大事で、命を落とさずに済むという話を、いろいろな園を回りながら聞いています。そういう場所に日野町はなるのではないかと私は思っています。

### ○委員長

ありがとうございます。私もこの議論を進めていく時に、ぜひ地域の方にお伺いしたいと思っていることがひとつあります。それは、幼稚園や保育園は皆さんにとってどういう場所ですかということを知りたいのですよ。なぜかという、たぶん集落によってもその感覚は違うと思うのです。

私は、「土木遺産を後世に残す」みたいなことをしているのですが、誰にも思い出されなくなった時には、私は場所が死ぬと思っているのです。皆さんも、例えば学校に行ったら、この場所でああいうことをしたなという思い出がありますね。だからその場所に何か起こることになったら、気になるでしょう。でも、そういう人たちがお年を召していなくなると、誰にも思い出されなくなって、その時に場所は死ぬと思っているのです。

そういった意味で、幼稚園・保育園の存在が大事ということであれば、ぜひそういう考えも広げていきたいと思います。

### ○委員

先ほどのスライドや資料は、今から人口が減っていった大変だよということで愕然としたし、統計などでどれぐらいの割合で減っていくかということがすごくわかりやすかったです。

僕は今年 38 歳で、小学校・中学校を過ごしていた当時は、結構怖い先生がいました。今では考えられませんが、耳をつかんでひっぱったりする先生もいましたが、それでも、その先生は僕たちに真剣だった、本気だったと思います。ただの体罰だとは僕らも思っていないませんでした。

自分としても、やっちゃいけないことはやっちゃいけないし、やらなきゃいけないことはやらなきゃいけないということは、子どもに言っています。今、小学校 2 年生と年長ですけど、遊んでいる最中にケンカになって叩いたりしますが、それはいけないことだと伝えるようにしています。そこをどうやって考えていくかの話は彼らなのかなと思います。

保育所・幼稚園の先生方には、いけないことはいけないと、やらなきゃいけないことはやらなきゃいけないし、やってはいけないことはやってはいけないということを伝えてほしいと常々思っています。教育というのは、これも持論ですけど、言葉を選ばずに言うと、死なないというか、決定的な怪我を負わないように、安全に怪我をさせてあげるのが

教育なのかなと僕は思っています。奇抜な言い方ですけど、安全に体験させてあげるということ、そういう感じで僕は子どもと接しています。よちよち歩きの時にこけてしまうかもしれないし、血が出るかも知れないけど、それを危ないからといって抱き上げていたら、ずっと歩けないままだと思うので、そういう感覚で、ケガしても仕方ないし、叱られても仕方ないし、どうやったらそうならないかということを経験させてあげるというのも、親として必要かなと僕は思います。

### ○委員

私は幼稚園に通園していましたが、子どもは3人とも保育園という現状になっています。私は地域でいろいろ活動をさせていただいたので調べていると、やはり地域の現状がここ30年くらいで大きく変わってきている。この変化は懇話会でもしっかりと知っている知識、それから勉強させていただくこと、まず現状分析をしっかりしなければならないと思います。

今年、必佐地区の子ども会の会長をさせていただいて、私が子どもの頃と比べ、各字の子ども的人数、大きな集落であっても、少子化により子どもがほとんどいないという地域があります。僕が住んでいる地域に関しては、湖南サンライズという大きな地域の次で、子ども会には40名ほどの子どもがいます。僕が小さい頃は20名ほどでしたので、地域の中に住宅地ができるとか、地域の現状をしっかりと見ていく必要があると思っています。

あとは1つ、保育士や幼稚園の先生の働き方。会社で労働組合をやらせていただいた中で、データで見ると手取り17~18万円位で、現状の保育士さん60万人、それから潜在の保育士さん95万人というデータが出ています。親としてどこまで先生と一緒に協力してやっていけるのかというところは、保護者会とかPTAでも議論になっていると思うので、そういったところを皆さんと話をしていけるかなと思います。

### ○委員

日野町の将来像、大きくはまだまだわかりませんが、今、自分が子育てをされていて、どういう助けがほしいのかな、どういう場所があったらもっと自分は楽しんで楽に子育てができるのかなと日々思っているのです。

文章にすると、すごいつながりなどがたくさんあるのですが、ファミリーサポートセンターを利用するにあたってもすごく段階を踏まないといけないし、つどいのひろばと言われても開館しておられる時間は限られていて、選択肢もたった1つになってくるのです。公園もいくつか日野町にはありますが、いざ木陰の多い、水に触れて遊べる場所といたらどこがあるのかなあ、もっとこんなのがあったらいいのになあと思うことが日々あるので、その辺、具体的に皆さんと話題にできたらいいなと思います。

また、今まで聞かせていただいて、「安全に怪我をさせる」と言われたのがすごく響いて、私自身も家庭では失敗をさせてあげられる場だと思っています。治るケガならいくらでもしてほしい、ちょっと飛び越えられるぞと思ったけど、実際にはケガをしたとか、小さいうちにたくさんの失敗をして大きくなってほしいと思います家庭でも意識し

ながら、ガチガチに囲った子育てではなく、伸び伸びと関わっていききたいなと思いました。

#### ○委員

子どもを保育園に預けている身としましては、保護者の意見を伝える機会というのは多くありますが、教諭の方々や保育士さんの率直な意見を聞くことはあまりなくて、匿名でないで意見を出していただくのは難しいかも知れませんが、こちらが助けていただく部分も多いので、先生方の現場の声をフィルターなく、壁なく、ご意見を聞いてみたいなと思います。現場の方々の意見を聞きながら、どうしたらもっとよくなっていくかということを考えていけたらなと思っています。

それから地域の話が出ていたので、私は桜谷で生まれて、一度県外に出て、子育てをするにあたって今は桜谷に住んでいます。私が住んでいる地域は、子どもたちが参加する行事を積極的に主催してくださる方がいて、子育てもしやすく、子どもたちも楽しめる機会が多いのですが、字によっては全くなかったりするところもあるでしょうし、格差があると思うので、一部の字だけではなくて、いろんな字で同じレベルで子どもたちが楽しめる機会を共有しながら、広げていけたらなと思います。

#### ○委員長

ありがとうございます。先生方のお話を聞く機会を設けて、ここに報告できるようにしたいと思っています。

#### ○委員

失礼します。日野幼稚園で子どもたちを預かっている立場です。日野幼稚園は、日野町の中心地にあり、歴史も 129 年目と、すごく伝統のある幼稚園です。日野幼稚園に思い入れのある人が来てくれているかということ、そうではなく、旧集落の人たちは少なくなっていますので、日野の中でもアパートに住んでいる人、それから新しく住宅地になったところの方が多く、もともと日野町の集落で生まれ育った方が少なくなっています。なので、帰れる場所と思いながら日野幼稚園を見ていて下さる方よりも、お父さん・お母さんたちも子どもたちも、これから日野幼稚園が自分たちの思い出の場所になっていくのかなという方々の方が多いです。

そして、新興住宅地の方におられる方は自治会がありますが、アパートに住んでおられる方も多くて、つながりの中の「地域」というところが欠けたお母さん・お父さんたちもおられます。幼稚園に来て初めて会う人がおられたり、おじいちゃん、おばあちゃんの助けもなく、孤独に子育てをされていて幼稚園に来られているという方も多いです。

その方たちがいろんな悩みを持ち、困っておられたりしているのをすごく感じます。園に来るまでは、話をする人がいなかった、ネットで調べるしかなかったりと、そういうときはこうしたらいいのだよとお話をさせていただくと、ああ、そうなのですねって、初めてホッとしたようなことを言っていただく方もおられます。保護者さんにとっては幼稚園、保育園、子ども園というのは、子どもたち同様に、安心できる場、つながれる場、そして話ができる場というふうな場になっていかないと、子育てを助けていけないのかな

ということを日々感じています。

## ○委員

わらべ保育園は私立園で、昭和 56 年が始まりの保育園です。町内で産休明けなどの保育がなかった中で、保育を始めて下さった歴史があります。そういうことを思いますと、「帰れるところ」ということでは、わらべ保育園に通っていたので自分の子どももわらべ保育園に預けますという方や、わらべ保育園で保育をしてもらって保育士になりましたという方々と出会う機会があり、そういうところが保育園の子育てのすごくいいところだなと日々感じているところです。

保護者の方が先に発言していただいて、その中で、先生方の本音を聞きたいとのご意見をいただいて、涙が出そうになりました。本当に先生たちも子どものことを思って一生懸命やっていますが、保護者の方とつながらない部分があったりして、保育士がそれで悩んでしまうということが皆さん方もよく聞かれるお話かなと思うのです。

私は園長として、そこは両方が思っているということもわかるので、わかりあえるというシステムみたいなものがあつたらいいのかなと思います。もう 1 つは保育士さんの働く環境という部分については、皆さんもご存じのように、私立の福祉に携わる者の賃金の低さというのは全国的にも言われています。賃金だけではなくて、子どもを一生懸命見るためには、人数の条件とかいろいろなことが整備できていくということも大事なことかなと思います、話を聞かせてもらいました。

## ○委員

地域の中で同世代の人としゃべっていると、祖父母の方が多いのですが、やはり核家族化が進んでいるので、おじいちゃんやおばあちゃんがお孫さんを見ておられることは少ないです。たまに預かれても、ママが帰ってくるまでケガしないように気をつけないといけないので、しんどいという声も聞きます。先ほど保護者さんの意見の中で、小さいケガは体験としてさせてほしいみたいなことを言われていましたので、ころんで段々手をつくようになる、ころんだ時には手をつくということを経験で習得していくのですけれども、そういうことが少し希薄になっているかなと感じていました。ですから、そういうことを聞いて安心しまして、ケガを恐れない、小さいケガは大きなケガをさせないためのものということを経験が普通だと思えば、怖がらずにお孫さんを見てもらえるのではないかなと思いました。

もう 1 つ、主任児童委員で幼稚園や保育所を訪問させていただきますが、そこで痛感するのは保育士不足です。臨時の方も来てくださっていますが、悪循環でこんなにしんどいところはとても勤まらない。特に正規職員の方が辞めて臨時・嘱託職員になられることが実際ありますので、そこが何とかならないかなとずっと思っています。話を聞いていると、皆さん本当に頑張っておられるなと思いますが、もちろんお母さん方の話も聞きたいし、地域と公民館との交流関係もしたいなと思うのですけれども、幼稚園・保育園の先生方の労働を何とか改善できたらいいなと思ひ話を聞かせてもらっていました。

## ○委員

私は、痛い思いで聞いたのですけれども、6年間子どもを産むまで保育士として働いていました。復職を考えた時に、先ほどから募集をかけても集まらないという現状をお聞きして、私も応えられていないところがあります。理由は沢山あるし、先輩保育士の方々も様々な理由で戻れないという現状があると思います。

給料だけではなくて、戻り時のサポートの低さ、今は核家族が多い中で、ひとりで子どもの食事をつくって、お風呂を入れて寝させてということをやっている中で、戻れるかという、考えられないくらいです。

働いていた時は土日もち帰りの仕事がありましたし、復職にはどうしても踏み込めない、踏み出せないところがあります。仕事量が昔と比べたら、保護者の方に求められることも多くなっているんで、責任も多いし、その分仕事量も増えていきますし、その責任感に耐えられるか、精神的・体力的に考えた時に戻れないのが現状です。

先ほどから、小さいケガはという意見がありましたが、命を預かっている身なので、やはりケガに対しては相当な覚悟で臨んでいる仕事です。このケガだったらいいとか悪いとか言われても、どんなケガでもさせたくないです。「行ってきます」と出かけて、「ただいま」とちゃんと帰って来てほしいし、帰らせてあげたいです。

そういう意味で6年間保育士をしていた時は、本当に責任感に押しつぶされそうになりながら、保育士が足りないと言われていた中で辞められない現状もあり、人手不足なので休みも取れないので、精神的苦痛と言いますか、大変なところを発散させる時間も場所もないし、聞いてもらう場所もなかったんで、私は精神的に病んでしまい、2～3ヵ月お休みしたこともありました。

休む間も気を使って、人手不足なのに休んでいてもいいのかって、休んでいる間も気が休まらなかったですし、戻ってから何も変わらない中で3年間働きましたけれども、戻りたいかと聞かれたら、子どもが好きだし、戻りたいけれども、環境が変わっていない中で戻れないということがあります。

それから、戻った方の同職の方々の意見をいっぱい聞くことがあるので、日野町の保育士として戻られた方の意見を聞いていても、自分の子どもの行事に参加できない。行事の日が重なったら絶対自分を優先しない、仕事を優先しないといけないので、運動会とか入園式とかにも出られなかったということも、ここまだ1～2年の間でも聞きます。今もそのような状況なのだと思います、私は他の子どももちろん大事ですけど、やはり子どもを産んでみて思うのは、自分の子どもの成長を見られないのはとてもつらいです。仕事なので仕事に行っている間の成長は保育士さんが丁寧に育ててくださっているんで不安はありませんが、行事ごとには行きたい。そういう時に成長を一気に見られるので、そこは行きたいと思います。自分のための休暇は親になるとあまり要らないなと思いますが、子どものための休暇は気軽にとれるような、そういう環境をつくっていただきたいと思います。

あと、桜谷地域に住んでいるので、南比都佐や西大路もそうかも知れませんが、過疎化

についてすごく気になっています。明るい未来にするために、自分の育てている子どもたちも、過疎化の地域に住み続けたいのかなと言ったら絶対そうではないと思います。活気にあふれた地域に住みたいなと絶対思うだろうし、子どもたちが大人になってからも、今のような活力のある日野町で暮らしてほしいと思うので、現状としてここに帰って来たいと思う地域づくりも大事ですし、日野町に暮らしてみたいと入って来てくださるようなサポートを強めていきたいと自分では思いますが、そういう意見も聞きたいし、交わりたいなと思っているところです。

### ○委員長

ありがとうございます。地域の中のワークショップに入って、その結果は私から報告させていただきますし、先生方もワークショップをして、もちろんしゃべりやすい、しゃべりにくいということはあると思いますが、そのあたりしっかりお聞きできるように、頑張っていきたいと思っております。ありがとうございます。

### ○委員

私はこの春に日野町に越してきました、春から子どもも子ども園でお世話になっております。それまでは水口の貴生川の方で祖父母と一緒に暮らしていました。もともと出身は京都ですが、子どもの頃は、新選組で有名な壬生寺にある壬生寺保育園に通わせてもらっていて、自分の地元に戻ると、夏にお祭りがあり、なつかしいなと、もしそういう帰ってきてやすいというか、子どもの思い出の場所になるところは大切だなと思いながら、皆さんの意見を聞かせていただいていたいました。

子育てについては皆さんより歴は浅いのですが、自分の母親が今、ファミサポをしていて、子どものお迎えに行き、何時間か家で一緒に遊んであげて、お母さんが自分の家に迎えに来るところまでということを見ていると子育てを離れてもこうやって頑張っている母親ってすごいと思いますし、そういうことが自分も後々できたらなと思いました。

桜谷地区の集落に住んでいますが、近所に1つ上、2つ上の子どもたちが近くに住んでいてくれるので、その親御さん同士で関わりを持たせてもらい、一番下の子の目が離せないで、上のお兄ちゃんがどんどん勝手に行ってしまうと、他のお母さんが面倒見てくださり、そういう地域のコミュニティはすごく温かいなと思いながら、日野町で生活させてもらっています。もっともっと日野町がよくなるように、温かい場所になってくれたらなと思っています。

### ○委員

先ほどから過疎化とか地域とかいう言葉が出てきたと思うのですが、10年前に移住してきて、夫も移住者になります。必佐地区の集落ですが、私の長男は13年ぶりの子どもでして、必佐小学校のPTAにも20年ぶりの復帰になります。周りに同世代の子どもがいない、やっと今1歳までの子どもが、私の子ども含め、8人まで増えている状態ですが、恐らくそれ以上は増えないだろうという状況です。近所の集落もそのような状況でPTAも久しぶりの復帰なので、同じ1年生がいないということで、隣の集落と一緒に

登校させていただいて通学している状況です。

その時点においてもかなり危機感を感じている状況ですが、集落によって違うと先ほどもおっしゃっていましたが、せっきくの懇話会なので全部の学区、保育園・幼稚園の代表が1人いてもよかったのではないかなという事は正直感じました。来て見て、なぜこんなラインナップかなと思ひ、役員体制を見たら、公立保育園代表・私立保育園代表・幼稚園代表・子ども園代表ということだったので、それぞれの代表ということで来たというのはわかりますが、日野町というのはそんなに大きくないので、保育園も幼稚園も少ない、そんなにあるわけではないし、それぞれに問題点を抱えていると思うのです。最近だと西大路幼稚園が結構な問題を抱えていると聞いていますので、その現状を皆さんが知らないこの会議はなかなか進まないのではないかとこのことをすごく感じました。

加えて、保育所、こども園の園児在籍数のところですけども、日野幼稚園、必佐幼稚園では預かり保育をしていると思ひます。預かり保育の人数が書かれてないということも不思議だなと、その辺を踏まえて話をする必要があると率直に感じています。

あと感想ですが、委員長は川が専門ということで、先日の日曜日に日野川エコスクールがありました。私は1歳の子がいるので参加していませんが、上の子と夫が参加したら、40人くらいの大人とお子さんが参加していたということでした。せっきくまちの資源を使ってやっているそういう活動があるというところがありますし、委員長は川が専門だということとつながってくると思うので、そういう部分との連携もしてはどうかということと、幼稚園・保育園だけではなくて、フリースクールの動きも日野町はあるので、園に行けない状態になった未就学児や低学年も踏まえて、是非、連携というか、見学に行っていたとか、そういうことも検討してはどうかと感じました。

## ○委員長

ありがとうございます。全部の園でワークショップをするのと、それに加えて、これから子育てするかも知れない人にも話を聞かなければいけないし、また園等に来られない方からも話を聞かなければいけないと思ひています。それについてはできる限り場をつくりたいと思ひています。

問題は、そういう方たちに、そういう場があるということはどうやって届けるかということが課題だと思ひています。またそのあたりは皆さんからご意見をいただいて、伝わるように工夫していかなければいけない。どれだけ場をつくっても、気づかれなかったら終わりですので、ありがとうございます。

あと、資料につきましては、今日の分でもかなり多い方だったと思ひるので、全部出しきれてないところがあります。ご指摘のようなことは確かに私も大事だと思ひますので、今後そういった資料は出せるようにしてもらいたいと思ひます。ありがとうございます。

## ○委員

皆さんが言っていたことに重なる部分もありますが、統計の数字を見せていただいている中でも、幼稚園の人数が少ないというのはいろいろな方々から聞いたりして

いる中で、それならこども園がと言っておられるのにも関わらず、こども園もこの人数くらいなのかなというのが率直に思うところです。

自分の子どもも保育園に行っていますが、保育園の魅力っていったい何なのか。こども園との差と言いますか、幼稚園は預かり保育が無い園があたり、他のところはあるとか、いろいろなところもあって、その時間帯では最近の働き方からするとなかなか預けるのは難しかったりするにも関わらず、じゃあ、こども園だったり違う幼稚園だったら行けるのではないかと思います、やはり保育園のニーズが高い。それはなぜなのかというところが勉強不足で申し訳ありませんが、率直に感じることです。

あと、先ほどの家庭・学校・地域というフローチャートがありましたが、地域の中でも話し合いをされている会議の場だけではなく、就学前の未就学児に向けた活動をされている、子どもたちと実際に肌を触れ合わせ、顔を見合って活動している団体は、町内を見ても何があるのかなと。スポットではあると思いますが、例えば小学校になったらスポーツ少年団があり、横のつながりがそこでできて、子どもたちの関わりができてというところがあるのかなと思う中で、我々も2年ほど前からチームの中で未就学児にスポットを当てて身体を動かす機会を毎週1回やっています。それが広まってくるとニーズが凄まじいものになってきていて、我々のキャパもそろそろオーバーするのかなというところまで来ています。やはり、未就学児の子どもたち、体力はあり余っているし、活動する場はないし、さあどうしたものか。この元気をどこで発散するのかというの、保育園だけの問題ではなくて、やはり地域でそういったところを支えるという部分も大切になってくるのかなと思いました。

また、最近よく言われている「開かれた学校づくり」といったところでも、保育園・幼稚園というところに地域に開けた学校づくりというところも大切になってくるのかなと感じています。

あと、自分の子どもが保育園に通っているというところで、どの保育士さんも本当に一生懸命、頑張ってくれています。けど、そろそろ年長さんだったら男の先生がいてもいいのと違うかなというところも疑問に思うところがあります。なり手が無いと言われたらそこまでになりますが、男だから、女だから、ではなくて、次の小学校に上がる中で、大切にしていきたいところもあるのかなと思います。

その根源となるというか、最近思っているのは、日野中学校の不登校児が多いことです。義務教育の最終段階になり中学校で幼児期に力をつけきれなかったのか、コミュニケーションの問題なのか、バックアップの問題なのか、何かはわかりませんが、不登校児が増えてきている。そういったことにならないためにも、やはり幼児期からしっかりとコミュニケーション力、先ほどおっしゃっていただいた5つの領域、そういったところで力をつけていながら、しっかりと1段階ずつステップアップしていけるような教育を目指していけたらいいのかなと感じていました。

## ○委員長

ありがとうございました。本当に皆様の人生が乗ったご意見をたくさん頂戴いたしました。実は私、元不登校児なので、中・高時代は学校を休みまくって、高校を卒業したのが20歳、大学に入ったのが23歳でした。本当に身につまされるところもありますし、要は精神的に参ってしまっちゃったのですよ。全然学校とか行けなくなって、だけど、行かなきゃいけないということで空回りして、なかなか乗り越えるのが大変だったこともあって、本当に私も身につまされる思いで聞いておりました。

でも、これだけ想いを持った方が集まっていたいておりますので、ぜひそれを少しでも解消できるようにしたいと思います。今日、たくさん宿題をいただきました。資料の簡素化の問題もありますし、すべての保育園・幼稚園は1回周らせていただいているので、まずは地域に入って保護者の方の意見を聞いて、それをまた皆さんにご報告する段階でまた取り扱っていただけらなと思っております。

まずは幼稚園・保育園から始めて、最後は、今おっしゃっておられた、これから子育てする可能性のある人たちのところまでたどり着けるように、できれば座長個人の気持ちとしては、2回は聞きたいと思います。1回だけだと聞いて終わりになってしまうからです。だから、キャッチボールが成立するようにしたいと思っているので、そういったところにもチャレンジしていきたいと思っています。

皆様に今日お配りした資料にワークショップのチラシやアンケートの内容を記載しています。ワークショップを開いて誰が参加するののかということですが、対象の方がいかに参加しやすい会にするのか悩んだ結果、「今日はどこに行こう会議」ということで、「～日野の子育て環境の未来はどこに行くか考えてみる～」というサブタイトルです。実際に聞く内容は子どもを連れて行く場所を聞いてみるという設定でやってみようと思います。子育て環境の未来像を語ってくださいと、30分の時間で聞かれた方も答えにくいなと思いますので、じゃあ、どうやって子育ての未来像につながる話を聞こうかということでも議論しまして、今考えているところですけども、子どものためならどんな希望や期待をもって個々に選択をしているのかを鍵として、まずは子どもを連れてどこへ行こうかと普段皆さん考えておられるのか、そこに皆さんの子育て像などが反映されるのかなと思ひ、まずはこれでやってみようと思っております。

最終的には、想いが重なるところを確認して、子育て環境を考える資料にしようと思います。この聞いた結果も皆さんに報告させていただいて、ひよっとしたらもっといい聞き方が出てくると思いますし、もう1つ思っているのは、保育園と幼稚園も違うだろうし、園によっても、私も回らせていただいて、全然環境が違うので正直たぶん、現場に出ているいろいろ尋ね方も変えなければいけないだろうなと思っております。生々しい結果も皆様の報告させていただいて、とにかく大事にしたいのは、現場のお父さん・お母さん方から話を聞いてくるということだと思っておりますので、それをまずしっかりやって、皆さんに報告したいと思っております。

というところまで私からということで、あとは事務局から他に何かございますか。

## ○子ども支援課長

ありがとうございます。早速明日からこぼと園を訪ねて、あおぞら園が7月21日の午前、鎌掛分園が同じ日の昼から、桜谷こども園が9月9日ということで、そこまでは決まっております。あと、幼稚園も順次調整をしていただきまして、わらべ保育園とも調整をさせていただいております。

あと、在宅支援層へワークショップということで、「ぼけっと」では日中にお母さん方に来ていただけたらと思います。若い方へのワークショップということで、日野町若者会議にご協力いただき、これから子育てをされる層のご意見もそういったところで得られないかと思います。先ほどから出ています保育者の意見ということで、現場の保育士・幼稚園教諭へのワークショップも考えております。

あと、公民館単位の一般層へのワークショップということで、10月から12月にかけて各地区の公民館7館ありますので、それぞれの地区を周らせていただいて、子育てを終わられた方、地域の中で核となって活動されている方々からも意見を聞きたいと思っております。皆さんも地元の公民館へぜひご参加いただけたらありがたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。以上です。

## ○委員長

ありがとうございました。今後の予定の確認をお願いします。

## ○子ども支援課長

今後の予定ということで、園のワークショップが一旦終わった時点で、まとめたものを皆さんと共有しながら、ご意見をいただく場を考えております。時期としましては9月の後半から10月の初旬にかけてと思っております。

## ○委員長

そのほか皆様から何かございますか。

(なし)

~~~~~

○委員長

最後に、この会議は、意見の重なりを探そうとしているので、前の人が出たから、重なるからといって遠慮しないでください。心の中で同意している話が見えなくなってしまうので、重なっているとか、前の人と同じだとか思わないで、ぜひおっしゃってください。その方が今後の話を進める上での大きなヒントになると思っております。

また意見を聞かせていただくこともあるのですが、皆さんぜひ相談にも乗っていただければと思います。みんなで考えていきましょう。

それでは、何もないのでこれで閉会ということで、事務局にお返しさせていただきます。

~~~~~

(閉会)